

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の経営理念に地域密着24時間365日「すぐやる・必ずやる・できるまでやる」すべては利用者様のためにとあるように地域のニーズに合わせ、できることの実践を積み重ねている。	法人理念があり、ホームの今年のスローガンは全職員で話し合い「初心に返り利用者様の立場に立ったサービスの提供」となっている。毎朝、朝礼で法人理念、スローガンを日替わりで読み合わせをしている。理念、スローガンをもとに目配り、気配り、心配りをしながら業務に就いている。適切でない対応が見られた時は場所を変え「なぜ」という注意をし、考えてもらうようにしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様のなじみの美容院だったり、スーパーに行くなど当たり前の暮らしの中でのつながりを大切にしている。地元のイベントにも参加させていただいている。	区費を納め自治会の一員となっている。年度初めの地区の総会に参加することもある。全家族の参加と小学生のブラスバンド、ボランティアの歌や踊り、地域の方々の参加で今年もホームの夏祭りが開催された。保育園児、高校生のボランティア、花のお土産を持って毎週来てくれる歌のボランティアや地域の方々との交流が続いている。高校生の職場体験も受け入れた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様・御家族様に限らず、介護相談を受けている。地域包括会議にも参加させていただき認知症について一緒に勉強させていただいている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーの方の貴重な意見をいただき実際のサービスに反映させている。ホームの中のことだけでなく、地域の事もまなばさせていただき、貴重な時間となっている。	家族、利用者、区長、民生委員(3名)、地域住民、市職員、地域包括支援センター職員で構成され2ヶ月に1回開催している。近況報告をし今後に向けて意見交換をしている。利用者を紹介する意味合いを兼ねて利用者が交代で参加している。ホームの行事での手伝いの依頼や委員から日常生活にいて提案をいただいている。AEDがあることについて住民や周辺に知らせたいというホームとしての意向もある。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスの質の向上と方向性を講習会や研修を通し学ばせていただく中で当ホームで方向性を決め、取り組んでいる。	会議や研修会に参加し職員全体には伝達研修で共有を図っている。今年度は法改正に伴い研修が多い。地域包括ケア会議の司会を管理者が担当している。介護認定更新申請は家族より依頼され代行申請してホームで調査に立ち会い(半数家族同席)状況伝えていく。毎月あんしん相談員の訪問があり、利用者や話をした後、職員に出来ごとや感想などが伝えられる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はいけない事なのになぜしてしまうのか、研修を重ねることで理解を深めようしたら身体拘束ゼロで安全な生活が支援できるようになるのかを検討しケアに取り組んでいる。	玄関の鍵を掛けることはない。入社時研修や定例会で研修が行われている。転落・転倒防止のため夜間のみベッドの柵をする方が若干名いる。家族の希望もあり、職員で話し合い床に布団使用で寝ていただいたり、柵を外したりと経過を見ながら対応している。外に出たい行動は当たり前と捉え態勢を整え対応している。鍵を掛けることでかえって利用者の混乱を招くと考えている。

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を深めると主に、精神的な支援・環境整備に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用している利用者様もおられますし、パンフレットを窓口に置いています。職員には研修を通し理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容・重要事項に関して書面をもって説明させていただき、実際生活が始まった中で不安なことや疑問がないかを面会の際にお聞きしている。改定の際も同様におこなう中で不安・疑問点がないかお聞きしている、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設けている。面会の際には日頃の様子を伝えながら、ご家族様の意見・要望がないかお聞きしている。	7割くらいの方が言葉で自分の意思を伝えられている。残りの方は、表情やしぐさで理解している。表現できない方には自分に置き換え考えたり、何回も話しかけ、単語で回答を得られることもある。家族の来訪は毎日の方や3ヶ月に1回と様々であるが、訪問時や電話での連絡等を通して意見や要望を聞いている。夏祭り、敬老会は100%の出席率となった。毎月居室担当者のコメントが書き添えられた「ホーム便り」を発行している。1年間の様子が見られるDVDも家族へ配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する方針は随時職員に伝え、職員の思いや意見は言葉に頼らず判断できるように努めている。物事をシンプルにとらえ、反映している。	全体会議が月に2回ある。第2、4の火曜日に行われている。業務連絡の他に毎月テーマを決め研修会や話し合いをしている。ユニット毎の開催で基本全員参加となっている。職員の意識も高く休みの人が参加することもある。平成26年より正式にキャリアパスが導入され、年に2回個人面談がある。一人ひとり目標を設定し半年で自己評価をしリーダー・管理者による評価がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを活用し、個々の能力に応じた職場環境や条件の整備に努め、やりがいをもって働けるように目標を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はもちろん外部研修にも積極的に参加できるように企画し、スキルアップの取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種の方が集まる研修や講演会に参加しネットワーク作りやサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境に心がけ、ゆっくり時間をかけてお話を聞くようにしている。信頼関係ができるように努め、言葉にできない思いや要望にも気づけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも話せる関係づくりを目指している。話しやすい雰囲気作りや声掛けに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・御家族様をはじめ、いろんな方からのお話を聞くことで情報を収集し、支援の方向性を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすことの意味を常に考え関係づくりを行っている。「こうあるべきだ」ではなくご本人に寄り添った考えができるように努め、関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に暮らす中でご本人様が困っていることへの支えていく者として、ご家族様・職員が共に考えられるような関係づくりを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、習慣の継続のための支援を行っている。面会の制限はなく、来ていただくことも出かけていくこともご本人の意向に沿うようにしている。	友人、知人の訪問が比較的多い。利用者のケアマネージャーだった方が訪問され居室で「女子会」と言いお茶のみをされたりする。利用者からの「そろそろね」の声で近所の馴染みの美容院に職員と一緒にいき、帰りは美容室の方に送っていただいている。お正月に泊りや日帰りで帰宅する方や家族が手料理を持参し居室でお祝いをする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	こたつが団らんの良いスペースになっている。ご利用者様同士・御家族・友人・職員とこたつに入りながら昔話に花が咲いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても必要に応じて今までと同様の御相談に応じます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様一人一人の意向に沿えるよう努めていますが困難な場合はできる限り我慢しない生活ができるように検討しています。	利用者の「家に帰りたい」との呟きを聞き、家族が面会の時に伝えたら、遠く離れた今では空家の家まで連れて行ってくれた。入浴介助の時に「温泉に行きたいね」とか「本当はお風呂嫌いなの」とこっそり打ち明けられる利用者もあり、それを受け止めるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・御家族様より生活歴をお聞きし、なじみの生活が継続できるようにサービスを提供できているか利用者様の様子やご家族様に相談させていただきながら見直しを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきを大切にしています。情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミニカンファレンスを毎日行い必要に応じて御家族さまや必要な関係者との話し合いの機会を持つようにし介護計画を作成しています。	利用者や家族の希望・要望を聞き作成している。居室担当者がチェック表を作成し、毎日気付きについての話し合いをしている。計画作成担当者(3名)が作成しており、家族の説明は面会時に顔を見ながら説明し質問等も聞いている。職員の育成・勉強、また、ケアプランを理解して毎日のケアに活かす目的で居室担当制を行っており職員もプラン作成を試みている。見直しは6ヶ月で行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別にケース記録に残し、申し送りによって職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるようにご家族様やボランティアの方の力もお借りしサービスの多様化に取り組んでいます。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの暮らしや人によって安心した生活が送れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院が困難になってきている利用者様には往診制度も利用していただきながら適切な医療が受けられるように支援しています。	半数ほどの方が協力医で、残りの半数の方は在宅よりのかかりつけ医となっている。かかりつけ医対応の方でも若干名の方は現在医者にかかっていない。かかりつけ医の通院は家族にお願いしている。歯科協力医院の歯科衛生士による口腔歯科指導がホームで行われている。看護師資格者が3名在籍し利用者の日々の健康チェックが行われ、変化等があれば早い対応がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が3人いますので適宜相談し、受診や看護が受けられるように支援します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際も随時関係者とも連携を密にとり早期に退院できるように関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される際に看とりを見据えて終末期の在り方について説明し話し合いを行っています。日々過ごして頂く中で状態の変化に伴い関係者間でも方針の共有をしながらチームで支援に取り組んでいます。	開設より10名前後の方の看取りをした。昨年3名の方を看取った。契約の時に看取り事項の確認をし記録として残している。終末期、看取り時期になると往診専門の協力医より家族へ話があり、ホームで家族、医師、職員で話し合いをしている。看取りが決定したら計画書を作成し、職員に対し研修を行っている。具体的に支持を出すことで共有化が図れている。お見送りは白布を掛けず、利用者も一緒にしている。家族会で「看取りについて」話し合いをする予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法はマニュアルにしてあります。毎年研修を行い手順について周知を行っています。昨年よりAEDも設置し講習も受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の方をお願いし消防訓練を行っています。また日々の点検も行っていきます。	年2回消防署に計画書を提出して2回とも消防署参加で行った。昼間想定、夜間想定を利用者も参加している。通報訓練や消火器の使用方の指導も受けた。また、業者点検が年2回あり通報機や電源等の関連性の説明や指導もあった。日々の点検はコンセントの埃、プラグのコード曲がり、加湿器、たばこの処置等を重点に行っている。AEDが平成26年より設置され、職員は研修を済ませている。来年度の訓練の時には地域の方にも見ていただきたいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段からプライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないように心がけています。馴合いからマンネリ化しないように話し合いの機会や研修を設けています。	他の利用者が居室に入ってくるのが嫌でドアに内部から物を置いて入れなくしていた利用者に対し、職員は「やめて下さい」ではなくベランダに回り「用事があるから開けて下さい」とお願いすると「あんたならいいよ」と開けてくれたという。また、入浴も男性介助を嫌がる利用者や若い男性職員ならOKと言う方もいてそれぞれ利用者の要望に答えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選ぶことができる様に支援することがご本人様の意思を尊重することの基本だと考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ですので決まりはありますがあくまでも基本と捉え、利用者様の意向に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や髪形はご本人が選べるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで役割の一つとして一緒に行っています。「何年やっていると思っているの?」と笑顔でジャガイモの皮をむいて下さる利用者様。いろいろ教えていただいています。	食材配達業者より福祉対象の献立で食材を仕入れている。手持ちの材料で献立を変更することもある。誕生会や行事の時はケーキ、回転寿司のお寿司などで目先を変えている。節分の恵方巻きはユニークで、一人ひとりが韓国海苔(噛み切り易い、顎に付かない)に手巻きすしのご飯と具を並べそれを簾で巻いた。1口か2口で食べれるので好評で喜ばれた。利用者にも出来る範囲で食事作りお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表をを付けて食事量の把握。体重測定で適量かどうかの判断をしています。献立は専門業者より管理栄養士の方が作ってくださった献立を使っています。食事量は利用者様毎に変えています。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂き、十分に磨くことができない方には介助にて歯磨きをさせていただいています。歯科衛生士による口腔歯科指導も取り入れています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活習慣の中から排泄パターンを把握し介助を行っている。できる限りトイレで排泄行為ができるように支援しています。	自立されている方が三分の一弱で、後の方はリハビリパンツやパッドを使用している。いずれもトイレ排泄を基本とし、個々の対応で声掛け誘導し支援している。家庭よりポータブルトイレを持ち込み夜間のみ使用していた方もいたが現在は使用している方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量など影響を及ぼす因子の理解と把握を行いトイレに座って排泄していただけるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保てれば回数にこだわらず、ゆっくり入浴していただけるように時間の調整をしている。声掛けや誘導はさせていただいているが無理強いはいしない。	基本1週間に2回としているが、嫌がったら無理強いしない。回数にこだわらずに、毎日入浴する方もいる。ユニット間で午前と午後別々に時間を設けてあり、拒否が強い方の様子を伺いながらユニット関係なく優先して入って頂いている。車椅子の方は職員2名で対応している。菖蒲湯やゆず湯を取り入れ、ゆず湯の時は香りを楽しむため5日間位毎日入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方で夜間の睡眠が左右されやすいので日中は楽しく体を動かしていただく工夫をしている。また天気の良い日は布団を干すなど環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルにそって介助を行っている。介助方法は利用者様毎に変えている。服薬内容や副作用は薬の説明書と書面と口頭での申し送り理解の徹底を行っている。ダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なこと、苦手なことの情報を基に一人一人の生活歴や力を活かした役割を持っていただいている。楽しい事や仕事があることで居場所ができています。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物が趣味で毎日のように出かけられる方もいらっしゃる。中庭の花を眺めるだけで良い御利用者様もおられる。外出を好まれません。ゆっくり過ごしたい利用者様もおられる。個々に合わせた外出支援を行っている。	お天気の良い日には交代で数名が近所を散歩している。ホーム近所の個人のお宅の吊るし雛を見学させていただいた。利用者の中には毎日目の前の大型店へ出かけることが日課になっている方もいる。利用者2名位と職員2名で利用者の行きたい所(須坂人形博物館、松代宝物館、松代公園)へ出かけたっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様の希望や力に応じて、ご家族様と相談の上お金を所持していただいている。管理についてもご本人にお任せしている。支援が必要な方については、おこずかい程度の金額をご家族様よりお預かりし支援させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に届いた手紙やはがきはご本人に渡したり、代読させていただくなどの支援をしている。年賀状など季節のあいさつにはがきを一緒に書くなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間トイレの電気は常につけっぱなしにしている。食堂廊下は暗くなく明るすぎないように配慮している。利用者様にとって居心地のいい環境にできるように声掛けを大事にしている。	職員が作ったスローガンを利用者が筆で書き居間に飾り出来栄が目を行っている。各居室の入口の上に花や樹の絵が飾られている。各居室毎違う模様で仕上げられたドアが目印になっている。ドアに目印になる数字が貼られている居室もある。窓の外には大手のスーパーや回転寿司等華やかな光景が見られる。ホームは絵画や控えめな飾りで落ち着いた雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂であったり、和室のこたつであったりとそれぞれの過ごしたい空間と過ごし方を大事にしています。冬場は炬燵が人気です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたものをできるだけ多く持ってきていただき、ご本人が居心地良く過ごしていただける空間にできるようご家族様をお願いしている。ベッドの位置は今までの生活習慣をもとに決めています。	居室には収納とベッド、洗面台が備えつけられている。家からテーブル、整理ダンス、ポータブルトイレなどが持ち込まれ、利用者の使いやすいように配置されていた。習字を日課とする方はテーブルに硯と墨汁、半紙が並べられ座布団が引かれていた。ベッドの配置も利用者の個々の対応で様々であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋の建物で床はバリアフリーになっている。廊下は車いすとのすれ違いも楽にできる広さとなっている。中庭も段差がなく自由に出入りできる構造になっており、四季の花や果樹が植えてあり楽しめるようになっている。		